

ゲートル、奉公袋、国民労務手帳、体力手帳

寄贈／岡野政俊

被爆後、岡野武夫さん(19歳)は、父と妹を捜すため安佐郡の自宅から急ぎ広島へ向かった。牛田町で被爆した二人にけがはなかったが、もともと体が弱かったこともあってか、妹の政子さんはその年の12月に18歳で亡くなった。

戦後、武夫さんが原爆の話をすることはほとんどなく、息子の政俊さんは大学生になるまで自宅にある少女の遺影が叔母にあたる政子さんであることを知らなかった。



岡野政子さん



武夫さんは召集され、8月16日に入隊を控えていた。